

仏教学部（2024年度以降第1学年次入学者適用カリキュラム）

区分	開講科目名	開始 セ メ ス タ ー	1	2	3-ア	3-イ	4	5	科目概要
			仏教および仏教に関連する研究領域に関わる基礎的知識と専門的知識を修得し、それを表現し、発信していく力を身につけている	社会人に必要とされる教養として、基礎的な読解力、歴史を正しく理解する力、問題を発見し解決策を検討する力、問題にアプローチするために資料を収集し、批判的に思考しながら読解する力、問題に多面的な検討を加えて解答を導き出し、それを論理的に表現する力を身につけている	浄土宗教師（浄土宗僧侶）として、仏祖・宗祖の精神を備え、それを伝え広めていく力を身につけている	仏教を学ぶことで培われた知識や技能を、社会のさまざまな場所で積極的に発揮していく力を身につけている	現代社会が抱えるさまざまな問題を理解し対応する力を身につけている	仏教が日本を含むアジアの人々の生活文化の中で果たしてきた役割を再発見、再評価し、それを社会に発信する力を身につけている	
学部 基 幹	ブッダの生涯と教え	1	◎		◎				仏教の祖ゴータマ・ブッダ（釈尊）の生涯と思想について論じる。ゴータマ・ブッダを歴史上、思想上より眺め、その生涯と思想を明らかにする。多くの伝承に彩られたブッダ像を批判的に考察しながらその実像に迫る。講義は、以下の4点より行う。①インド古代において仏教が興った歴史的背景 ②ゴータマ・ブッダの生涯 ③ゴータマ・ブッダの思想 ④ゴータマ・ブッダの滅後の仏教
	法然の生涯と教え	2	◎		◎				浄土宗の開祖である法然の教えを建学の精神とする大学であり、その建学の精神の基礎となる法然の生涯と教えを学ぶ。①浄土教の概略とインド・中国・日本への浄土教の流れを概説 ②法然の生涯 ③法然の思想 ④法然以後の浄土学
	仏教研究への道案内	3	◎						仏教は、インド・中国・日本・チベットをはじめ、世界中に展開し、その歴史を築いている宗教である。仏教研究のテーマも、地域や時代によってさまざまに存在する。この講義では、仏教学部教員全員が、それぞれの研究している領域の概要と、その魅力について講義する。
	仏教学の基礎	1	◎		◎	◎			仏教の基本を習得させるために、①原始仏教思想（仏教成立の社会背景、原始仏教資料論、ゴータマの出家一苦の自覚、さとりの内容一縁起説、最初の説法一四聖諦、最後の説法一精進の教え、原始仏教の倫理思想一五つの戒め、仏教の特色一三法印）と②部派仏教思想（部派仏教の成立、部派仏教資料論、部派仏教教義概説一ブッダ論、万有論、世界観）について概説する。③大乘仏教思想。大乘仏教の興起について講義する（初期大乘経典、龍樹の教学、中期大乘経典、無著・世親の教学・後期大乘経典）について概説する。
	浄土学の基礎	2	○		◎				浄土教の基本を習得させるために、①浄土教の概略（大乘仏教としての浄土教、インド・中国・日本への浄土教の流れ②浄土三部経の概略③所求・所帰・去行の概略 ④浄土五祖と二祖三代、などの概略を講義形式で行う。
仏教文化学の基礎	2	○				◎	○	○	仏教文化学の基礎を習得させるために、①仏教文化とは ②日本文化の特性 ③仏教と彫刻 ④仏教と絵画 ⑤仏教と建築 ⑥仏教と文学 ⑦仏教と芸能、などについて概説する。

仏教学科（2024年度以降第1学年次入学者適用カリキュラム）

区分	科目名	開始 セ メ ス タ ー	1	2	3-ア	3-イ	4	5	科目の概要	
			仏教および仏教に関連する研究領域に関わる基礎的知識と専門的知識を修得し、それを表現し、発信していく力を身につけている	社会人に必要とされる教養として、基礎的な読解力、歴史を正しく理解する力、問題を発見し解決策を検討する力、問題にアプローチするために資料を収集し、批判的に思考しながら読解する力、問題に多面的な検討を加えて解答を導き出し、それを論理的に表現する力を身につけている	浄土宗教師（浄土宗僧侶）として、仏祖・宗祖の精神を備え、それを伝え広めていく力を身につけている	仏教を学ぶことで培われた知識や技能を、社会のさまざまな場所で積極的に発揮していく力を身につけている	現代社会が抱えるさまざまな問題を理解し対応する力を身につけている	仏教が日本を含むアジアの人々の生活文化の中で果たしてきた役割を再発見、再評価し、それを社会に発信する力を身につけている		
学科基礎	入門ゼミ	1		◎					大学教育へのスムーズな導入を目的に、図書館を利用した参考文献の検索やレポートの作成方法など、大学における学習の基礎的な方法について講義する。講義に際しては、今後の専門的な学習の下地となるよう、仏教の学習を例に挙げて進める。少人数ゼミという授業の特性を生かし、学生の意見をくみ取りながら、学生自らがもつ仏教への興味・関心を学問的な問題意識へと転換できるよう、講義をする。	
	基礎ゼミ	4	◎						仏教を研究していく上で必要となる知識・技法を学ぶ。具体的には、1. 原典資料を中心とした仏教叢書の紹介、2. 辞書・目録・索引・年表などの種類と扱い方、3. 資料および先行研究の収集方法と読解についての講義と、そうした段階を踏まえて、受講生の分担発表（調査・レポート化・発表）を行う。	
	古文入門	1	◎	◎					日本の仏教を学ぶためには、古文は必須である。本科目では仏教に関わる種々の日本古文文献をもちいながら、古文の基礎を身につけることを目的とする。	
	古文上級	2	○	○					「古文入門」によって習得された基礎力を、さらに磨くために種々の古文文献を読み、さらにスキルアップをはかるのが本科目のねらいである。	
	漢文入門	1	◎	◎					仏教を学ぶためには漢文は必須である。本科目では仏教に関わる種々の漢文文献をもちいながら、漢文の基礎を身につけることを目的とする。	
	漢文上級	2	○	○					「漢文入門」によって習得された基礎力を、さらに磨くために種々の漢文文献を読み、さらにスキルアップをはかるのが本科目のねらいである。	
	サンスクリット語入門	3	○	○					サンスクリット語文法をゼロから学び、練習問題を解く。	
	サンスクリット語上級	4	○	○					サンスクリット語で書かれたインドの物語を読解する。	
	パーリ語	5	○	○					もともと、授業時間の制約上、すべてを網羅的に取り扱うことはできないが、できるだけ身近な問題を取り上げながら授業を進める予定である。	
チベット語	5	○	○					古典チベット語初級文法の修得をめざす。発音・チベット文字の構成・助辞・辞書の使い方等、基礎的な説明を行う		
学科専攻 共通	予備ゼミ1	5	◎	◎		◎		◎	卒業論文の作成への第一歩として、受講生自身が選択したテーマについて研究をすすめるために、必要な専門知識と研究方法を実践的に修得する。また受講生それぞれの成果を発表し、それを基に討議を行う。	
	予備ゼミ2	6	◎	◎		◎		◎	予備ゼミ1に引き続き、受講生自身が選択したテーマについての成果を発表し、それを基に討議を行い、研究テーマの明確化を図る。	
	卒論ゼミ1	7	◎	◎		◎		◎	卒業論文のテーマを定め、関連する資料の収集と読解、フィールドワークなどの準備を進めながら、卒業論文作成に必要な基礎的なスキルを学習する。	
	卒論ゼミ2	8	◎	◎		◎		◎	卒論ゼミ1での学習を踏まえ、指導教員・ゼミ生との質疑応答によって研究を深めるとともに、論文の草稿作成に取り組み、指導教員の個別指導を受けながら推敲を繰り返して卒業論文を完成させる。	
	卒業論文	8	◎	◎		◎		◎	自身が選択したテーマについて、その目的や意義を自覚し、研究動向を踏まえて問題点を指摘し、原典資料の読解に基づいて自説を主張する。これを規定枚数に論述する。	
	宗教史	1	○	○	○			○		キリスト教西欧文化においてもインド文化と同様に、宗教と哲学は近代に至るまで、密接な関係をなしてきた。「宗教とは何なのか?」「哲学とは何なのか?」そして人間の「生」において宗教と哲学とはいかに関係づけられるのかなどについて、西洋の宗教と哲学を歴史的に解説していく。近代日本宗教史の主たる担い手ともいえる新宗教と、現代の精神文化についても概説する。仏教の伝来より平安時代末までの日本仏教史を概説する。代表的な人物をとりあげ、その事績を中心に解説し、仏教思想がいかにして日本人の血となり肉となっていたのかを明らかにする。
	日本仏教史（仏教伝来～平安）	1	◎	◎	◎	○		◎		仏教の伝来より平安時代末までの仏教の歴史や思想展開について講義していく。 ①仏教伝来、②飛鳥時代、③奈良時代、④平安時代初期、⑤平安時代中期、⑥平安時代末期、について概説する。
	日本仏教史（鎌倉以降）	2	◎	◎	◎	○		◎		鎌倉時代以降の仏教の歴史や思想展開について講義していく。①鎌倉時代 ②室町時代 ③江戸時代 ④明治以降、について概説する。
	中国仏教史	1	○	○	○	○		◎		仏教が中国に伝来して、中国社会にどのように受容・展開されていったのかを概説していく。①後漢・三国 ②両晋 ③南北朝 ④隋・唐 ⑤五代・宋 ⑥元・明・清 ⑦現代、について概説する。
	インド仏教史	1	○	○	○	○		◎		インド仏教史について概説する。①原始仏教 ②部派仏教 ③大乘仏教 ④密教 ⑤仏教論理学、について概説する。

区分	科目名	開始 セ メ ス タ ー	1	2	3-ア	3-イ	4	5	科目の概要
			仏教および仏教に関連する研究領域に関わる基礎的知識と専門的知識を修得し、それを表現し、発信していく力を身につけている	社会人に必要とされる教養として、基礎的な読解力、歴史を正しく理解する力、問題を発見し解決策を検討する力、問題にアプローチするために資料を収集し、批判的に思考しながら読解する力、問題に多面的な検討を加えて解答を導き出し、それを論理的に表現する力を身につけている	浄土宗教師（浄土宗僧侶）として、仏祖・宗祖の精神を備え、それを伝え広めていく力	仏教を学ぶことで培われた知識や技能を、社会のさまざまな場所で積極的に発揮していく力	現代社会が抱えるさまざまな問題を理解し対応する力を身につけている	仏教が日本を含むアジアの人々の生活文化の中で果たしてきた役割を再発見、再評価し、それを社会に発信する力を身につけている	
共通	アジア仏教史（チベット・東南アジア）	2	△	△	△	△		◎	ユーラシアの多くの地域に拡がりを見せたチベット系仏教と、東南アジア諸国に伝わった仏教の、それぞれの伝来と展開を概観する。 ①チベットへのインド仏教導入 ②チベット仏教諸学派（ニンマ、カダム、カギュー、サキヤ、ゲルク派）の形成と思想史 ③南方上座部の歴史的展開 ④スリランカ・インドシナでの展開、について概説する。
	アジア仏教史（韓国）	3	△	△	△	△		◎	朝鮮半島への仏教伝来と展開について概説する。 朝鮮半島に仏教が伝来し、どのように展開したかを中心に概説をする。朝鮮仏教は中国仏教の影響を受けているが、やがて独自の発展を遂げるようになる。 そうした朝鮮仏教の特徴も同時に概観する。
	浄土教史	3	○	○	◎			○	インドにおける浄土教の発生から、中国・日本における歴史的展開について概説する。なお、日本については法然以前までを扱う。
	浄土宗史	4	△	△	◎			○	法然による浄土宗開宗から、二祖聖光、三祖良忠を経て、七祖聖岡によって伝法制度が確立し、独立した教団へと展開していった歴史について概説する。
思想・歴史コース	仏教学研究（初期・部派）	3	○	○	○			○	初期仏教、部派仏教に関する話題を取り上げ、その話題の意味、話題をめぐる研究史等について講義する。
	仏教学研究（大乘・チベット）	3	○	○	○			○	大乘仏教（チベット仏教を含む）に関する話題を取り上げ、その話題の意味、話題をめぐる研究史等について講義する。
	仏教学研究（中国）	4	○	○	○			○	中国（朝鮮半島を含む）仏教に関する話題を取り上げ、その話題の意味、話題をめぐる研究史等について講義する。 中国の隋・唐代と朝鮮の新羅において、『無量寿経』がどのように受容され研究されたかについて講義する。
	仏教学研究（日本）	4	○	○	○			○	日本仏教に関する話題（浄土教関連を除く）を取り上げ、その話題の意味、話題をめぐる研究史等について講義する。
	仏教学講読（初期・部派）	4	○	○	○			○	初期仏教または部派仏教に関する文献を取り上げ、原典資料を講読しながら、重要な事柄について解説する。
	仏教学講読（大乘・チベット）	4	○	○	○			○	大乘仏教（チベット仏教を含む）に関する文献を取り上げ、原典資料を講読しながら、重要な事柄について解説する。
	仏教学講読（中国）	5	○	○	○			○	仏教の中国的展開として存在する中国撰述経典を通して中国仏教の独自性を学ぶ。
	仏教学講読（日本）	5	○	○	○			○	日本仏教に関する文献を取り上げ、原典資料を講読しながら、重要な事柄について解説する。
	仏教学演習（初期・部派）	5	○	○			○	○	初期仏教、部派仏教に関する話題を取り上げ、教員の指導のもと、学生が主体となって資料作成、研究発表、講読、報告・議論を行う。
	仏教学演習（大乘・チベット）	5	○	○			○	○	大乘仏教（チベット仏教を含む）に関する話題を取り上げ、教員の指導のもと、学生が主体となって資料作成、研究発表、講読、報告・議論を行う。
	仏教学演習（中国）	6	○	○			○	○	中国（朝鮮半島を含む）仏教に関する話題を取り上げ、教員の指導のもと、学生が主体となって資料作成、研究発表、講読、報告・議論を行う。
	仏教学演習（日本）	6	○	○			○	○	日本仏教に関する話題を取り上げ、教員の指導のもと、学生が主体となって資料作成、研究発表、講読、報告・議論を行う。
文学・芸術コース	仏教文化学研究（インド・中国）	3	○	○				○	インド、あるいは中国における文化の諸現象を取り上げ、仏教がそれらの文化形成と発展にどのような関わりを持ってきたかについて講義する
	仏教文化学研究（日本）	4	○	○				○	日本文化の諸現象を取り上げ、仏教が日本の文化形成と発展にどのような関わりを持ってきたかについて講義する。
	仏教美術研究（インド・中国）	4	○	○				○	インドまたは中国における造形・絵画などの仏教美術の種類と特色について講義する。
	仏教美術研究（日本）	5	○	○				○	日本における造形・絵画などの仏教美術の種類と特色について講義する。
	伝統文化研究（茶道）	3		△	△	△	△	△	日本の伝統文化の中の一つである茶道の講義・実践を通じて「道・学・実」を学ぶ。 実践においては、懐紙の使い方・茶道具の扱い・掛軸の取り扱い等を重視する。
	伝統文化研究（華道）	3		△	△	△	△	△	日本の伝統文化の中の一つである華道の講義・実践を通じて、日本人が本来持っている自然への捉え方や共生の持つ意味を考え、且つ実作することによって表現の楽しさ大切さを学ぶ。
	伝統文化研究（書道）	4		△	○	△	△	△	日本の伝統文化の中の一つである書道（梵字悉曇文字）の歴史を講義し、また毛筆による実習を行う。
	伝統文化研究（儀礼・音楽）	4		△	△	△	△	△	仏教を中心に、東アジアにおいて受け継がれてきた宗教儀礼、あるいは儀礼で用いられる声明などの音楽的要素について取り上げ、それらの儀礼・音楽の歴史や意義について講義する。
	仏教書誌学研究	3	△	△				○	書誌学一般の知識について概説し、インド・中国・朝鮮半島・日本における、仏教典籍の書写・印刷・出版・流通について講義する。
	仏教文化学講読	4	○	○	○			○	仏教を基盤とする史伝・文学作品などの文献や造像銘などを取り上げて講読しながら、重要な事柄について解説する。
仏教文化学演習	5	○	○			○	○	仏教に関連する文化の諸現象を取り上げ、教員の指導のもと、学生が主体となって資料作成、研究発表、講読、報告・議論を行う。	
僧侶養成コース	浄土三部経研究1（無量寿経）	3	○	△	◎			△	浄土宗の根本聖典である浄土三部経のうち、『無量寿経』を講義する。
	浄土三部経研究2（観経・阿弥陀経）	4	○	△	◎			△	浄土宗の根本聖典である浄土三部経のうち、『観無量寿経』と『阿弥陀経』を講義する。
	浄土学研究	3	○	△	◎			△	浄土教思想に関する話題（法然と浄土宗に関しては除く）を取り上げ、その話題の意味、話題をめぐる研究史等について講義する。
	浄土宗学研究	4	△	△	◎			△	法然浄土教および浄土宗の思想に関する話題を取り上げ、その話題の意味、話題をめぐる研究史等について講義する。

区分	科目名	開始 セ メ ス タ ー	1	2	3-ア	3-イ	4	5	科目の概要	
			仏教および仏教に関連する研究領域に関わる基礎的知識と専門的知識を修得し、それを表現し、発信していく力を身につけている	社会人に必要とされる教養として、基礎的な読解力、歴史を正しく理解する力、問題を発見し解決策を検討する力、問題にアプローチするために資料を収集し、批判的に思考しながら読解する力、問題に多面的な検討を加えて解答を導き出し、それを論理的に表現する力を身につけている	浄土宗教師（浄土宗僧侶）として、仏祖・宗祖の精神を備え、それを伝え広めていく力	仏教を学ぶことで培われた知識や技能を、社会のさまざまな場所で積極的に発揮していく力	現代社会が抱えるさまざまな問題を理解し対応する力を身につけている	仏教が日本を含むアジアの人々の生活文化の中で果たしてきた役割を再発見、再評価し、それを社会に発信する力を身につけている		
学科 専攻	選択集研究1	4	△	△	◎			△	浄土宗の宗祖、法然上人の主著である『選択集』の成立、概要、前半部（第一章～第六章）を講義する。	
	選択集研究2	5	△	△	○			△	浄土宗の宗祖、法然上人の主著である『選択集』の後半部（第七章～第十六章）を講義する。	
	法然門流研究	4	○	○	○			○	法然の門流のうち、主要な門流について概説し、とくに浄土宗二祖である聖光房弁長と三祖良忠の思想について講義する。	
	浄土学講読	4	○	○	◎			○	浄土教思想に関する文献（浄土三部経および法然と浄土宗に関しては除く）を取り上げ、原典資料を講読しながら、重要な事柄について解説する。	
	浄土宗学講読	5	○	○	◎			○	法然によって開かれた浄土宗に関する文献を取り上げ、原典資料を講読しながら、重要な事柄について解説する。	
	浄土学演習	5	○	○	○	○		○	浄土教（法然および浄土宗に関しては除く）に関する話題を取り上げ、教員の指導のもと、学生が主体となって資料作成、研究発表、講読、報告・議論を行う。	
	浄土宗学演習	6	○	○	○	○		○	法然を中心とした浄土宗に関する話題を取り上げ、教員の指導のもと、学生が主体となって資料作成、研究発表、講読、報告・議論を行う。	
関連	哲学概論	2	△	△				○	哲学は一見、抽象的な議論のつらなりであるが、議論は日常の経験に根ざしている。哲学の主要な議論を生活空間のなかから理解していくことがこの講義の目的である。20世紀の現象学や解釈学の立場を軸としながら進みたい。①哲学と日常性②物との関わり③人間と空間④歴史と風土	
	仏教哲学（インド）	3	△	△		△		△	○	インドにおける存在論や認識論などの哲学的命題に対し、仏教がどのような議論をしているのか、あるいは他のインド思想（ウパニシャッド、六派哲学など）との関連性について概説する。
	仏教哲学（中国・日本）	4	△	△		△		△	△	中国あるいは日本における存在論や認識論などの哲学的命題に対し、仏教がどのような議論をしているのか、あるいは他の中国思想（儒教・道教など）や日本思想（神道、国学）との関連性について概説する。
	倫理学概論	1	△	△				○		西洋では多様な倫理思想が生まれたが、ここでは19世紀、デンマークの哲学者、ケルケゴールの思想を分析する。キリスト教神学や近代哲学がどのように彼の思想に関連するかを考察しながら、現代におけるその有効性を問うてみたい。①倫理学とはなにか②ケルケゴールの生涯と著作③道徳哲学者としてのケルケゴール④近代哲学のなかでの位置づけ。
	宗教学概論	1	△	△				○		宗教の本質については様々な見解が見られるが、これらを紹介しながら分析する。近代哲学はカントによる魂の実体性の否定によって、一つの頂点を迎える。この、キリスト教神学による魂不滅の信仰への痛打が、どう受け止められたかを中心に考察を進めていきたい。①宗教の定義②物との関わり③人間と空間④歴史と風土。
	仏教と現代社会の諸問題	2	△	△	◎	○		◎	○	現代という社会において、仏教の役割が何処にありうるかを問い、仏教のあり方自身を考えさせる科目である。伝統仏教と現代社会とのかわりについて、「政治と仏教」「葬儀と寺檀制度」「仏教とメディア戦略」「仏教と先端科学・医学」「仏教と環境問題」などの各分野から、具体例をまじえて多角的に考察する。病める現代社会に仏教の救いとなりうるか。仏教2500年の智慧を現代にどう生かすかを考える。
	人権同和教育（仏教と人権）	2		△			△	△		日本固有の人権問題である部落差別問題をはじめとする様々な差別や人権問題について、法然上人の万人平等救済の思想を初めとする仏教思想を通して、共に学び、共に考える。
	仏教と文学	3	△	△				△	△	日本文学の作品を取り上げ、その作品に現れる仏教思想や、また文学作品内の仏教思想から見た日本仏教の特徴について講義する。
	仏教と文化財	4	△	△		△			△	仏教思想に基づく典籍・造形・絵画・建築などの文化財の種類、その扱い方、活用方法について講義する。可能であれば、実物を用いて扱い方の実際について学ぶ。
	宗派仏教	4	△	△	△			△	△	日本仏教の諸宗派の歴史と思想の概要について講義する。
	仏教フィールドワーク	3					△	△		寺院探訪と地域活動への参加を通じて、仏教と社会の関係について学ぶ。 1) 寺院探訪では、教室での事前学習ならびに臨地学習によって寺院の伽藍・歴史・行事・儀式を学び、背景にある信仰・文化を理解する。 2) 地域活動では、地域社会（京都市北区・待鳳学区）の人々との交流を通して、「仏教思想」から社会生活を考える。
	開教概論1（歴史と基礎知識）	3		△	△	△	△	△	△	江戸時代にはじまる浄土宗の開教の歴史と基礎知識を講義する。
	開教概論2（方法と実践）	4		△	△	△	△	△	△	「開教概論1（歴史と基礎知識）」を踏まえて、開教の方法と実践について講義する。
	開教英語	3		△	△	△	△	△	△	開教実践に役立てるため、仏教を客観的に語る英語を習得する。
	仏蹟研修	3							△	海外（インド・東南アジア・中国・韓国など）の仏蹟、もしくは日本の仏蹟を探訪する。探訪するに当たっては事前学習を実施し、探訪する仏蹟について講義する。
仏教インターンシップ	6			△					仏教行事の運営補助を実際の現場で行いながら、運営業務の実際や連携協力の必要性などを体験し、仏教行事・儀式・形式・作法の、精神・意義・目的、運営主体・運営方法、参加者との関係性について学修する。	
宗教法制	3				◎			△	宗教法人法および関連する法律について講義する。	

区分	科目名	開始 セ メ ス タ ー	1	2	3-ア	3-イ	4	5	科目の概要
			仏教および仏教に関連する研究領域に関わる基礎的知識と専門的知識を修得し、それを表現し、発信していく力を身につけている	社会人に必要とされる教養として、基礎的な読解力、歴史を正しく理解する力、問題を発見し解決策を検討する力、問題にアプローチするために資料を収集し、批判的に思考しながら読解する力、問題に多面的な検討を加えて解答を導き出し、それを論理的に表現する力を身につけている	浄土宗教師（浄土宗僧侶）として、仏祖・宗祖の精神を備え、それを伝え広めていく力	仏教を学ぶことで培われた知識や技能を、社会のさまざまな場所で積極的に発揮していく力	現代社会が抱えるさまざまな問題を理解し対応する力を身につけている	仏教が日本を含むアジアの人々の生活文化の中で果たしてきた役割を再発見、再評価し、それを社会に発信する力を身につけている	
関連	日本史概論	1	△	△					大学で学ぶ歴史学はこれまでの歴史の学習とは大きく異なるだけでなく、現在持っている歴史の知識も、これから始まる専門的な学修を考えた時に、決して十分とはいえない。この講義では、歴史学の基本的な考え方・方法に基づき、担当教員が日本史の各時代を理解するうえで重要と考えた事象を取り上げ講義する。講義の内容を理解するなかで、今後の専門的な学修に際して基礎となる日本史の知識を習得するとともに、学問としての歴史学の基本的な考え方や方法を理解する。
	東洋史概論	1	△	△					本講義では、東洋の歴史、とりわけ中国の歴史について、古代から近代まで大まかな流れに沿って学修する。中国は、古代から近代にいたるまで、日本の歴史と深いかかわりを持ってきたが、その歴史や、培われてきた社会・文化は、日本とまったく異なる。中国における王朝ごとの基礎的な歴史用語の解説を進めながら、その王朝の歴史や文化の特徴を学ぶ。また王朝の移り変わりを理解し、中国史の概略を学び、歴史の多様性を学修する。
	西洋史概論	1	△	△					グローバルな関係性が張り巡らされた現代社会のなかで、西洋文明の理解は日本人にとって不可欠である。本講義では、その中核をなすヨーロッパ文明について、その形成期に重点をおきながら通時的に歴史を概観する。そうすることで、そこに生きた人びとの文化やものの考え方の特徴を学ぶ。加えて、講義中に紹介される史料の解説を通して、各時代と社会の具体的なイメージをつかみ、他者たるヨーロッパに対する理解を深める。
	日本史特論	2	△	△					日本史概論の学修を通じて日本史各時代の最低限の知識を身につけ、歴史学（日本史学）の基本的な考え方・方法の一端に触れた。本科目では、もう少し専門的な内容に踏み込み講義する。時代によって取り上げる問題や内容は異なるが、日本史の各時代を理解するうえで基礎となる重要事項であることに変わりはない。講義の内容を理解し知識を広めることに加え、専門課程での学修を見据え、複数の事項を関連づけたり、背景を考えたりするなどして、歴史学の考え方や方法の基本となる思考に触れてみて欲しい。
	人文地理学 1	3		△					人文地理学とは、日本・世界の各地域で展開されている人間の諸活動を論理的に考察する地理学の一分野である。この講義では、私たちが生活している現在の日本・世界の諸地域とそこに住む人々の社会、生活や生産活動の特徴を地理学的に理解するために、分布、移動や生産、流通、消費、さらに地域構造といった事象に焦点を当てて学んでいく。
	人文地理学 2	4		△					人文地理学とは、日本・世界の各地域で展開されている人間の諸活動を論理的に考察する地理学の一分野である。この講義では、私たちが生活している現在の日本・世界の諸地域とそこに住む人々の社会、生活や生産活動の特徴を地理学的に理解するために、場所に関わる宗教、生業、文化、あるいは空間上に現れる社会的差異といった事象に焦点を当てて学んでいく。
	自然地理学 1	3		△					自然地理学とは、地球上の自然環境を構成する諸要素を総合的・有機的に捉える地理学の一分野である。この講義では、日本や世界各地の地形、気候、水文、植生、土壌等に関わる自然地理学の基礎知識を正しく理解し、地球上の自然環境を総合的・有機的に説明する能力の獲得を目指す。
	自然地理学 2	4		△					自然地理学とは、地球上の自然環境を構成する諸要素を総合的・有機的に捉える地理学の一分野であるが、環境の要素には人間もまた含まれる。この講義では、防災や持続可能社会などといった環境との関わりで人間が直面する問題を通じて、日本や世界各地の自然環境と人間との相互作用の関係を理解し、説明する能力の獲得を目指す。
	地誌学 1	3		△					地誌学とは、自然現象（地形・気候・水文など）と人文現象（都市・経済・歴史・交通など）の相互関係を総合的に考察し、地域的性質をとらえる地理学の一分野である。この講義では、様々な地理学の議論を導き、日本や世界各地の自然と文化の相互作用について学ぶことで、グローバル化する現代世界でそれぞれの地域を単純化することなく理解する能力を身につける。
	地誌学 2	4		○					地誌学とは、自然現象（地形・気候・水文など）と人文現象（都市・経済・歴史・交通など）の相互関係を総合的に考察し、地域的性質をとらえる地理学の一分野である。この講義ではある地域の特徴を自然環境、歴史、文化、政治、経済など様々な観点から総合的に理解した上で、現在の世界的な課題や国際情勢の中に適切に位置付ける視点の獲得を目指す。
	法律学概論 1	1						○	人が集まり、社会と言う集団が作られるとき、そこにはルールが発生し、それが「法」と呼ばれるようになる。この授業では、私たちの生活に対するルールとして機能する基本的な「法」を紹介する。その上で、現行法制度の紹介にとどまらず、その限界事例での法的な考え方について解説したい。
	法律学概論 2	2						○	人が集まり、社会と言う集団が作られるとき、そこにはルールが発生し、「法」と呼ばれるようになる。そうした「法」により規律される空間においても限界事例が生じる。このような限界事例において、憲法上の権利がどのように機能しているのか、という点について取り扱う。もっとも、授業時間の制約上、すべてを網羅的に取り扱うことはできないが、できるだけ身近な問題を取り上げながら授業を進める予定である。
	国際政治学	1						○	このような限界事例において、憲法上の権利がどのように機能しているのか、という点について取り扱う。

区分	科目名	開始 セ メ ス タ ー	1	2	3-ア	3-イ	4	5	科目の概要
			仏教および仏教に関連する研究領域に関わる基礎的知識と専門的知識を修得し、それを表現し、発信していく力を身につけている	社会人に必要とされる教養として、基礎的な読解力、歴史を正しく理解する力、問題を発見し解決策を検討する力、問題にアプローチするために資料を収集し、批判的に思考しながら読解する力、問題に多面的な検討を加えて解答を導き出し、それを論理的に表現する力を身につけている	浄土宗教師（浄土宗僧侶）として、仏祖・宗祖の精神を備え、それを伝え広めていく力	仏教を学ぶことで培われた知識や技能を、社会のさまざまな場所で積極的に発揮していく力	現代社会が抱えるさまざまな問題を理解し対応する力を身につけている	仏教が日本を含むアジアの人々の生活文化の中で果たしてきた役割を再発見、再評価し、それを社会に発信する力を身につけている	
関連	法式実習 1	1			自由科目のため、以下DPなし				宿泊生活を通して、人間形成と同時に浄土宗教師にとって相応の志向と立居振舞を身に付ける。すなわち、入行期間の生活全般を本授業科目として充て、その生活全般を通してあるべき自己を形成する。浄土宗教師としての実践生活や活動を志す以上、その専門的な知識や技能は正しい生活規範の上であってこそ正しく形成され、かつ奥深い意味を持つものである。このことを念頭に、とにかく基本であり基準となる生活全般に勤行作法を加えて幅広く反復実践し、手段として日常的に実践し続けられる自己を構築する。本授業科目は、このための支援として展開する。
	法式実習 2	2						宿泊生活を通して、人間形成と同時に浄土宗教師にとって相応の志向と立居振舞を身に付ける。すなわち、入行期間の生活全般を本授業科目として充て、その生活全般を通してあるべき自己を形成する。浄土宗教師としての実践生活や活動を志す以上、その専門的な知識や技能は正しい生活規範の上であってこそ正しく形成され、かつ奥深い意味を持つものである。このことを念頭に、とにかく基本であり基準となる生活全般に勤行作法を加えて幅広く反復実践し、手段として日常的に実践し続けられる自己を構築する。本授業科目は、このための支援として展開する。	
	法務実習（初級） 1	1						伝宗伝戒（加行）道場への入行に向けた浄土宗法式の基礎解説と反復練習を行う。	
	法務実習（初級） 2	2						伝宗伝戒（加行）道場への入行に向けた浄土宗法式の基礎解説と応用の反復練習を行う。	
	日常勤行式の解説	1						浄土宗の僧侶を目指す者にとって、読誦正行の基本が日常勤行式である。その日常勤行式の各偈文について出典を探り、内容を解説していく。	
	伝道学 1（念仏講話）	3						実際に各自が2回高座に登って発表し、布教伝道の基本を習得します。1回目は、高座説教の作法の習得。すなわち、説相の持ち方、歩き方、礼拝、袂紗のさばき方、割笏の打ち方などの作法に重点をおいて、話の中身は、自己紹介をしてもらいます。2回目は、元祖大師御法語の一節を讀題（講題、演題）として、布教伝道の基本を習得する。よって、高座説教の讀題の唱え方、話し方、さらに伝道布教のための原稿の作り方として、法説、比喻を通して、御法語を研究して、浄土宗義を身につけるようにする。その上、自分自身の体験談を因縁話として取り出し、それを法説に結びつけて、念仏申すことが、最高の生き方であることを布教伝道出来るようにする。	
	伝道学 2	4						実際に各自が3回高座に登って発表し、布教伝道の基本を習得します。1回目は、高座説教の作法の習得。すなわち、説相の持ち方、歩き方、礼拝、袂紗のさばき方、割笏の打ち方などの作法に重点をおいて、話の中身は、自己紹介をもらいます。2回目は、元祖大師御法語の一節を讀題（講題、演題）として、布教伝道の基本を習得する。よって、高座説教の讀題の唱え方、話し方、さらに伝道布教のための原稿の作り方として、法説、比喻を通して、御法語を研究して、浄土宗義を身につけるようにする。その上、自分自身の体験談を因縁話として取り出し、それを法説に結びつけて、念仏申すことが、最高の生き方であることを布教伝道出来るようにする。3回目は、2回目の実演の講評や反省点をもとに、原稿を見なおし、再度実演し、自信をもって布教伝道できるようにする。	
	詠唱 1	3						吉水流詠唱の念仏教化活動としての位置づけ、及び実践。	
	詠唱 2	3						吉水流詠唱の念仏教化活動としての位置づけ、及びその理解。	
	伝書 1	4						浄土宗第七祖了譽聖岡によって確立された伝法制度の概要について講述する。その後、三巻書から『往生記』と『末代念仏授手印』を取り上げ講読する。	
	伝書 2	5						浄土宗第七祖了譽聖岡によって確立された伝法制度の概要について講述し、三巻書（『往生記』、『末代念仏授手印』、『領解末代念仏授手印抄』）と、その注釈書である七巻書を講読する。	
	円頓戒 1	4						浄土宗僧侶をめざす者にとって、浄土宗の伝法が大事である。伝法の伝宗と伝戒は円頓戒である。まず戒とはどのような意義があるのか、つぎに円頓戒の歴史をふまえた上で、円頓戒の内容を概説していく。	
	円頓戒 2	5						浄土宗の円頓戒をめぐって、その歴史と思想を確認し、授戒儀式の作法である「授菩薩戒儀」（十二門戒儀）によって儀式の次第を理解する。さらに伝宗としての念仏と伝戒としての円頓戒の関係や、戒を相承（伝戒、授戒）し実践する意義についても考える。	
	法務実習（中級） 1	4						勤行法と各種法要の概説を行う。	
	法務実習（中級） 2	4						勤行法と各種法要の概説を行う。	
	法務実習（上級） 1	6						これまでの宿泊研修からの時間経過を鑑み、俱に一処に会すことによる意識高揚と威儀作法の確認を図りつつ、生活規範と勤行技能の基礎練習に努める。これによって、浄土宗教師（浄土宗僧侶）として仏祖・宗祖の精神を備え、それを伝え広めていく自己意識と実践精神を確立し、体現能力を高める。	
	法務実習（上級） 2	6						これまでの宿泊研修からの時間経過を鑑み、俱に一処に会すことによる意識高揚と威儀作法の確認を図りつつ、生活規範と勤行技能の基礎練習に努める。これによって、浄土宗教師（浄土宗僧侶）として仏祖・宗祖の精神を備え、それを伝え広めていく自己意識と実践精神を確立し、体現能力を高める。	
	法務実習（特級） 1	7						5級式師課程の科目を中心に教養を深める。	
	法務実習（特級） 2	8						5級式師課程の科目を中心に教養を深める。	